

# JAITI 21

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの略文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる糧」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行所 (財)日本農業研修場協力団  
住所 〒386-0502 長野県小県郡武七村沖456  
TEL0268-85-3465 FAX0268-85-3583

## 今日のジャイチ

前期中間報告と収支報告、今期中間報告と予算を中心、現状のお知らせです。

◆第九期事業・収支報告  
二〇〇〇年四月一日から二〇〇一年三月三十一日迄、バシユバント学校の施設整備は、第十教室、第五生徒用便所が完成、第五教員宿舎、電気引き込み工事は、未完成で次期へ工事を引き継ぎました。

生徒二四〇名に対する教材、教職員給料等の運営維持費は、小学五年生迄一五〇名の給食費を含め、従前通り全額無償で実施。

学校に関わるその他は、吉林大学チームによる、水田の保全による寄生虫コントロール事業、松田重英カメラマンによる、開校以来毎年継続しているフィルム収録事業の実施、自立運営に向けての、村長、父兄との対話と具体策の検討を進めました。

カカニ農場の自立運営は順調に推移しており、当期末諸指導に理事が何回か赴きましたが、農場への直接授下支援金は無しで運営できました。

JAITI—ネパールの農場と学校—訪問の旅、ネパール現地への視察、ボランティア受入は、可能な限り対応努力して、訪問者に活動の実態を直に見聞して貰いました。

広報と活動費捻出に、次期の一部も含め、この半年間に、上田、上田六文銭、上田東の各ロタリークラブでの卓話、国際ボランティア貯金十周年記念シンポジウムへのパネラー出席、

長門小学校PTA（長野県長門町）での講演、後記のバザーを実施開催し、担当の方々にお世話になりました。十二月、このまちでNGO（愛知県刈谷市）、四、五、六月、世田谷オーブンマーケット（東京都世田谷区）、四月から五月、根津バザー（東京都文京区）、五月、佐久総合病院祭バザー（長野県白田町）。

収支は別表の通りですが、当期の公的機関よりの助成金は、総務省国際ボランティア貯金、(社)国際農林業協力協会より受けました。

◆第十期事業予定・予算  
二〇〇一年四月一日から二〇〇二年三月三十一日迄、バシユバント学校の施設整備は、前期からの継続工事として、第五教員宿舎、電気引き込み工事の校内作業の一部です。

在校生は二七〇名（一学年から九学年各学年三〇名）で、今期も全て無償で維持運営します。吉林大学チームによる、水田の保全による寄生虫コントロール事業も、続けて実施します。

カカニ農場は、自立運営の安定継続が見込めるので、今後の展開と今日迄の移転技術の維持確認作業に、農

業技術専門家の派遣を支援。その他、機関紙の発行、各地の講演会、バザーによる、広報と活動費の調達、「ネパールの農場と学校」訪問の旅等も、従前通り実施します。

◆電気引き込み工事  
六月現在、九〇%の作業が終わっています。完工した建物から逐次使用開始してま

すから、夜間、学校を預む高台から校内を眺めると、周囲が真っ暗な中、学校全体が浮いて見えます。

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来ならば、受領の都度お礼を差し出さなければいけないのですが、費用効果を優先して、この「JAITI」誌面、「ご協力有難う御座いました」の◆寄付品欄に、お名前を掲載することで、受取りとお礼を兼ねますが、ご容赦下さい。今後も同様

の形で続けます。ご了承願います。

◆ネパール情報  
今号は、誌面の都合で、お休みします。(菊池)



◆出番を待つキワイフルーン  
周辺四町村を総称して、依田窪地区と呼ばれています。今後の事業活動を、この地域包みで進めることを考え、改造時期前の中途就任になり、五月二十六日開催した理事会及び、評議員会に於いて、後掲の方々が、同日付で新任されました。皆様のご意見、ご助言をお届け下さい。

理事（任期は平成十四年三月三十一日迄）  
・羽田健一郎 長野県和田村  
・堀内 憲明 長野県女子町  
・評議員（任期は平成十四年十二月三十一日迄）  
・小山田秀士 長野県女子町  
・名倉 俊城 長野県長門町  
・柳澤 貞司 長野県和田村

◆理事・評議員の  
新任  
ジャイチが所在する武石村を含め

物から逐次使用開始してま  
すから、夜間、学校を預む  
高台から校内を眺めると、  
周囲が真っ暗な中、学校全  
体が浮いて見えます。

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆電気引き込み工事  
六月現在、九〇%の作業  
が終わっています。完工した建  
物から逐次使用開始してま

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

◆古切手と使用済カードを  
送付下さった方へは、本来  
ならば、受領の都度お礼を  
差し出さなければいけない  
のですが、費用効果を優先  
して、この「JAITI」

### (財)日本農業研修場協力団収支報告 2000年4月—2001年3月 (単位千円)

1. 収入の部	
①基本財産運用収入	430
②支援者寄附金	13,723
③公的機関よりの寄附金・助成金・ 支援費	6,139
④財団設立者寄附金	1,210
⑤現地研修視察事業収入	4,264
⑥その他の収入	20
⑦前期よりの繰越金	2,380
合計	28,175
2. 支出の部	
①国内事業費	3,139
②国外事業費	16,900
③国内事務経理運営費	4,597
④基本財産へ組入れ	2,827
合計	27,562
3. 次期への繰越金	613

# ジャイチの精神に深い感銘

長野町ネパール国際医療研修団

団長 黒沢 勇人

自治体職員海外研修はさほど珍しいことではなくなりましたが、その先がネパール国というのは珍しいことだと思えます。

物質的に満たされた日本の生活とは対照的な途上国の生活環境や教育、農業等を見聞して何かを学んで、今回の視察研修では、ジャイチの活動状況を知り、国際交流やボランティアのあり方を考えることも目的の一つとしていました。

NGO（非政府組織）としてのジャイチの姿は、その遠大な理念と構想にあることは多くの人たちが知るところです。私も、以前よりジャイチの活躍を耳にしており、是非一度現地へ行ってみたいという思いを持っていましたので、参加募集があったときは、いの一歩に手を挙げました。

多くのボランティア団体が注力する農業や教育の支援は、数年で成果をあげ結果が出るものではありません。それだけに、ジャイチが学校や農場を建設後、ど

興味深く視察研修させていただきました。

今回の視察研修に、随行いただいた小林宗副理事長と菊池健介常務理事は、「開発途上国支援の基本理念は、自立心の引き出し、支援の継続維持、文化相違点の尊重、共同作業を軸とする食料の安定確保」であると常々言われています。自立を見届けられない支援ならしない方がよいとの立場を遵守しています。現地を案内いただき、お話を伺うと、

求道者の使命を自らに課しているといつてよいほど真摯な姿勢が伝わってきて、その精神に深い感銘を受けました。

思っていたとおり、ジャ



▲バッシュバンド学校で参加者一同撮影



研修団のカカニ農場訪問（上）とバッシュバンド学校訪問（下）風景

イチの活動はネパール国を挙げ高く評価されています。カカニ実業研修農場では、次々に新しい作物が試験導入され、適作物種目であるかどうかの見極めのため試験研究、普及が続けられています。バッシュバンド学校は、実に二十年後を目

途に、子供たちが卒業して自立し、自分たちの力で母校を維持できるようになるまで支援したいとの考えにたって運営されています。

ジャイチの活動に賛同する支援者は、現在全国で二千人に達し、この十年間に一億回以上の滞泊がネパールに翻られ、役立てられていることも知りました。

ネパール国の視察研修を通じて、先述の「ネパールを訪ね私の嫌いな言葉になりました」と呼ばれる国に暮らす私たちは、ボランティアの名のもとに、物や金を施し、優越感に浸るとい

う思い上がった考えや行動に陥らないよう、常にあらゆる角度から国際社会の動向を見極め、多くを学ぶ姿

## 里だより 労働組合の運動として

勢、世界の友になる努力を怠ってはならないとの思いを強くしました。

中国クラブ子砂漠の植林、阪神淡路線の震災支援の取り組みこれらは今年で八年目を迎えます。ヘルシーへは国立幼稚園の設立、昨年は「百輪程度の病気で多くの人が亡くなっている。救急車がなければどれだけの人命が救われるか」という話しを聞き救急車を届けました。大変な時間と労力が必要だったと聞いております。また地域社会とのつながりを大切にし障害者施設

私はN.T.T労働組合群馬県支部という組織の中で仕事をしております。労働組合の仕事に携わるようになって初めてジャイチの存在を知りました。

私の組合ではアジジウちゃんという七歳の女の子とリッショ君という八歳の男の子の里親になっております。二人とも、生懸命に勉強をしておる様子がそれぞれのお父様からの手紙でよく分かります。里親にならせていただいたことに大変感謝して下さいます。お礼の手紙と一緒に成績表を送って来て下さいました。



（高崎市）

写真の中の笑顔に映し出されています。物質的にも経済的にも余裕がありすぎる為、今の日本の若者達が育ってしまっただけでしょうか。幼児虐待、パチンコ限の駐車場での幼児の死亡事故など、親としての自覚や母性愛などまったく無くしてしまっている現実社会で何か出来る事はないだろうかと思つたときに、組合活動を通じて様々なボランティアに取り組みで参りました。

多くの組合員にジャイチのような存在を知らせてゆきたいと思っております。微力ではございますが、これからも協力させて頂きますのでよろしくお願ひ致します。

N.T.T労働組合群馬県支部 総務担当 高所康子

## バシュパント学校 寄生虫調査 (V) (健康調査と宝の山)



▶ 充電器の音は今はなく、静かさの中での寄生虫検査

厳しい寒さの続く二月十日、私たちは成田を出発し、パンコクを経由して日本の秋の気候を想わせるカトマンズに到着しました。

今回の訪問はバシフアント学校において五日目になる健康調査、寄生虫調査と、今回初めて実施する呼吸器感染症の実態調査を目的と

したものです。日本側スタッフは春木宏介先生と私（吉林大学医学部感染症学教室）の他に、今回初めての訪問となる東京女子医科大学感染症科の菊池賢（呼吸器感染症の専門家）先生、ネパール側スタッフはトリブバン大学のジョーバ博士の他に公衆衛生専門家一名、検査技師二名、看護婦一名、それにジャイチネパールのマン支配人と数ヶ月間学校で先生方のお手伝いすることになっているシュレーバハドールK・Cさんの総勢十名で、二日間の資料の準備や事前の打ち合わせを済ませ後、チャーターした二台の車で肺炎ガスや人ごみで溢れるカトマンズを脱し、五日間の予定でシンパンジャンの学校へ向いました。

車中からは所々ネパール式の家屋が田園風景の広がりの中に点在しており、ネパールにまたたことを実感しました。学校到着後には先生と生徒たち全員による歓迎式をうけ、道徳してはんの少しだけ大人になった懐かしい顔とともに、まだ幼さが残っている

新一年生に出会うことができました。今回の健康調査では、直液検査、身体検査ならびに健康診断、寄生虫検査（糞便検査とセロファンテ「フ法」による検虫検査）と、呼吸器感染症のための鼻咽喉、口蓋扁桃の培養検査を行なって、最終日には寄生虫の治療の他に生徒たちと先生方への衛生教育を実施しました。今回の衛生教育では、低学年には健康の大切さについて解りやすく覚えてもらうために、春木先生手作りの健康双六ゲー

ムによる学習を、高学年には下痢による脱水の仕組みについて、工夫を凝らした「簡単（マン支配人作製）」を使って行ないました。更に生徒自身が衛生教育を実行するために、「自分たちの健康は自分たちで守る」という自覚を養うための話し合いが、春木先生によってネパール語と日本語を取り混ぜながら行われました。今回の調査の中で、生徒たちの寄生虫感染率が前回の検査結果より減少していることが解りました。さらに、呼吸器感染症の実態調

査では抗生物質治療の必要な急性呼吸器感染症は殆ど見られませんでした。粗悪な居住環境や衛生状況などが関与していると思われる肺炎球菌の鼻咽喉頭保有者が低学年ほど高く、一・二年生では日本の三・四倍に達していたことが菊池先生の検査結果で解りました。尚、今回の調査では学校に電気が通ることになって、前回の調査までとは一転したような環境のもとで仕事をすることができました。特に顕微鏡による寄生虫検査ではこれまで発電機を使用していました。コンセントを差し込むだけで夜おそくまで顕微鏡検査ができ、短期間で実のある検査をすることができました。

しかし、今まで電気が無かったことを不自由と感じなかつた私ですが、この場所でも電気が使うことが可能になると、つい都会の便利さに毒されている自分へと戻ること気がかかれました。電気を使えるようになるという変化がネパール人の生活にどのような影響を与えるかは未知数です。今回の調査が多くの方々のお力のもとで無事終了してカトマンズに戻った私は、帰国する前のフリーな時間を活用してマン支配人のご好意でカカニ実験研修農場を見学することができ



▲カカニ実験研修農場の広大なイチゴ畑

ました。カトマンズより北西に約二十五キロに位置するこの農場は、遠くに雄大なヒマラヤ山脈が見える景観のもと、山肌を切り削じた広大な耕作地にイチゴの苗が埋め尽くされています。この農場の中心的存在であるラクバ・シェルバさん夫婦にイチゴやイチゴジャム入りの紅茶をご馳走になりながら農場についてのお話を聞くことができ、ジャイチの目指す支援が確実に進んできたこと、ご夫婦のひたむきな農場への取り組み姿勢を伺い知ることが出来ました。

私には農場見学以外の仕事上も一つ一つの目的がありました。寄生虫には、もともと動物の疾病であるものが二次的にヒトに感染するものがあります。このようにヒトと動物との共通の寄生虫（人畜共通寄生虫）を調べるために、マン支配人の案内でカカニ地区の家々を回り家畜（ニワトリ、ヤギなど）の糞便を採取することです。今回は地区の家々のご協力によって満足する家畜数の糞便を採取することができました。これを大切に梱包して日本に持ち帰り、研究室で検査を行います。この糞便は、今後の調査研究にとっても重要なものであり、言い換えれば「宝の山」のようなものです。

（吉林大学 藤野隆志）

▲カカニ地区での家畜の糞便採取

# はじめまして

## 関 四郎

はじめまして、四月からジャイチ事務局の手伝いを始めました。

事務所にいて毎日多くの支援者からご寄付やお便りをいただき、感激の日々を送っています。

すでに六十六歳という高齢者ですが、今までお世話になった多くの皆さんに感謝の気持ちで恩返しができる仕事と考えています。至らないことが多いと思いますが、よろしくお願いいたします。

さて、去る六月二日の本報には、ネパールの首都カトマンズの王宮では、惨劇があり、ネパール国民から敬愛されていたビルンドラ

国王陛下ご夫婦が崩御され、この内容が、バシユバント学校の趣意記事で、これが本日の学校ですというネパールの教育行政を批判した記事でした。

新国王となつてまもなく、前御されたディベンドラ元皇太子殿下におかれましては、訪日中の去る四月二十九日、東京都内で小林副理事長夫妻、菊池常務理事、高橋理事ら六人のジャイチ代表者と三十分にも及ぶ長時間接見され、ジャイチのネパールへの支援に感謝のお言葉を述べられたということです。痛ましい惨劇にあつたためにお見舞いを申し上げます。

一方、ジャイチネパールのマン支配人からは、現地ネパールの新聞記事とその

日本語訳のフアックスが届きました。その内容は、バシユバント学校の趣意記事で、これが本日の学校ですというネパールの教育行政を批判した記事でした。

バシユバント学校も九年二七〇〇人になりました。

いま学んでいる生徒が、ネパールの未来を担う人材になることは確実です。そしてバシユバント学校の運営も白らの力でできるような支援を続けることが必要だと思つていきます。

議学率四〇%、国民生産額（GDP）二二〇ドルといわれるネパールの発展にお役に立てれば、この上ない幸せです。

※玉田さんは、この三月まで長野県の農業関係のお仕事をなさり、この四月からジャイチ事務所に着任されました。

一部とあわせてお届けできるように頑張ります。

「ふくろう基金」

日頃のご奉仕活動に感謝申し上げます。

ようやく基金、支援を不特定の方々に訴えることができませんでした。

レストハウスの前庭の中央に「フクロウ基金」とデザインしたモニュメント（写真）が完成しました。毎日募金額を掲載に記せ



「ふくろう基金」の石碑が完成しました。毎日募金額を掲載に記せ

### 第十二回 ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集

今年も実施します。

日程 十一月九日（金）～十八日（日）九泊十日

◆旅費 成田からバンコク経由で同日カトマンズに着翌日よりボカラ（ミニトレッキング）ーチトワン国立公園ーダマナーバシユバント学校ーカトマンズ（マウンテンフライト）ーカカニ農場ーカトマンズと移動します。

◆費用 二十五万円。全行程中の移動手段（航空機はエコノミークラス）、宿泊費、食料代を含む。空港往復の日本国内交通費と、海外旅行傷害保険などは、含まれていません。

◆参加条件 一、二時間散歩が可能の方。

◆最少催行人員 一八名

◆申込方法 電話・フアック

◆お問い合わせ下さい。後日、申込書と詳しい旅行

お知らせ

### ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本的財源の確保
  - 基金を信託銀行・国債等で運営し、その果実（利息）でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。果実のようなものです。
  - ・基金が大きくなればなるほどジャイチの取組が安定します。
  - ・基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に協働の魂が残り続きます。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
  - 基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に役立てるべく目的のものです。一年毎のような春補て秋に収穫して終わります。自分の期、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費
  - 新たに大きい費用がかかる事業を計画した時にその必要費用として確保することを目的としています。
  - ・意味の手帳（ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で生まれる）では賅いきれない時に前報に添付に集める目的の寄附金です。
  - 必要な時に前報に添付のお願いの知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのが、お見えになりますと幸いです。もしも特に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

〒396-0502 長野県小県郡武石村沖456  
電話 0268-85-3485 FAX 0268-85-3583  
尚、金額に関しては規定がございませんので、お好きにお自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。（例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的々考えは如何でしょうか。）

### 編集後記

私は、石だらけの小さな畑で自家用野菜を栽培している。昨年からは不耕栽培にしました。土はほとんどいじらない。

葉を虫に食われながら、風雨にたえ、いろいろな植物と競合しながら育っていく野菜に対して、私が手を出すことはできる限り差し控えるように思っている。

植物を育むのは、人ではなくて、太陽の光と水と風土である。

海外ボランティアや援助も、「過ぎたるは及ばざるが如し」と思う。（武石村 慶）

### 物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載いたします。ご冥福を祈りますと共に、感謝致します。

高島百合子 十二年十月  
（東京都八王子市）  
市丸 誠 十二年二月  
（滋賀県大津市）  
後藤 育男 十二年四月  
（愛知県名古屋市中区）  
嶋田金太郎 十二年三月  
（埼玉県戸田市）